

ほっかいどうの社会保障

2011年12月29日

北海道社会保障推進協議会

Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

保育

道議会が意見書採択！署名は道内で11万5千筆超

よりよい保育をめざして、新システム導入反対の世論と運動が広がっています。臨時国会（12月9日閉会）には、全国で集めた160万筆が提出されました。北海道では、12月21日現在で、11万5724筆集まっています。政府は、新システムの法案を来年の通常国会に提出する準備をして、3月には決めたいと考えています。署名の最終集約は1月27日です。

また、道保育連などが道議会に請願していた「新システムの導入反対の意見書」について、8日の少子高齢化対策特別委員会では継続審議になりましたが、9日に行われた本会議で採択されました。

- 1 直接契約、直接補助、応益負担など国の公的保育責任の後退につながる「子ども・子育て新システム」に基づく保育制度改革ではなく、すべての子どもの健やかな育ちを保障するために、福祉としての現行保育制度を堅持・拡充すること。
- 2 国の責任において緊急に認可保育所の整備を行い待機児童の解消を図ること。地方自治体が待機児童解消に向けた取り組みができるよう、国が必要な支援と財政措置を行うこと。
- 3 保育所・幼稚園・学童保育及び子育て支援関連予算を大幅にふやし、子育てにかかわる経済的負担の軽減を図ること。
- 4 保育の質の低下につながる保育所の国の最低基準の引き下げは行わず、国の責任において維持、改善すること。
- 5 幼保一体化など保育・幼児教育の制度設計に当たっては、地方自治体、保育・幼児教育関係団体、保護者等から十分な意見聴取を行い、慎重な検討を行うこと。

高齢者や障害者の交通権を守れるため市民の声を聞いて

函館市で宣伝署名行動



26日、「交通機関乗車料金助成制度を考える会」は、函館市が来年度から実施しようとして制度の見直しについて、当面の実施を延期し、広く当事者・市民の声を聞くことを求め、街頭で宣伝署名行動しました。

函館市は、現在、70歳以上の高齢者と障害者に市電・バスの半額または無料利用書を交付していますが、この制度を当事者に市民に説明なく、来年度から上限を設けようとしています。この制度は、高齢者や障害者などの健康や生活に大きな役割を果たしてきました。（「函館社保協ニュース」より）

国保問題で、自治体と懇談・要請行動（根室・苫小牧社保協）

年末、各地域社保協が自治体と懇談、交渉が行われました。

26日、根室社保協は、市の国保担当者と懇談しました。冒頭、「国保は社会保障制度であることを共通認識にしたい」旨の趣旨を述べ、この間の事例も上げて、資格証明書、国保一部負担金減免、国保の広域化、特定健診など内容は多岐にわたりました。

懇談の中で、「国保は社会保障制度であること」は事実上確認し、「資格証発行に当たっては本人との面談を行うこと」「一負担金減免の対象から滞納者はずすこと」について市側が検討することになりました。

27日には苫小牧社保協が、国保の学習懇談会を行いました。市の国保課担当課長から、苫小牧市の黒字財政の状況や市の国保一部負担減免基準について報告。市の国保一部負担減免基準は、厚労省が示す基準を緩和（収入の減少は年金者でも対象・入院も対象など）した形で運用され、その結果、2010年度では認定0件でしたが今年度はすでに5件が認定。国保課では、国保一部負担の減免が周知されていない現状を踏まえて各医療機関向けに国保一部負担減免のポスターを作製する予定とのこと。苫小牧社保協では改めて要望をまとめ市と交渉することになっています。